

隔月連載

# デザインのきっかけ

中小企業がデザインに踏み出すための第一歩を探る

デザインで自社を変えたい。でも、どうやって始めればいいのかわからない。そんな悩みを抱えるみなさんのために、中小企業とデザインの接点になる事例を紹介し、デザイン導入に向けての第一歩を踏み出すヒントとノウハウをお伝えします。

第5回

## 伝統工芸とデザイナーの結びつき

伝統工芸士から見た協働のための心構え

都内だけでなく、全国で伝統工芸とデザインの協働事業を目にすることが増えてきました。そこで、東京七宝工業協同組合の理事長であり、デザイナーと一緒にオリジナル商品をつくり続ける畠山七宝製作所の七宝職人、畠山弘さんにお話を伺いました。

**デザイナーに依頼するときにはどんなことを期待しているのでしょうか？**

私は「頭の中に描いているものを形にしたい」という想いを、常に持ち続けています。しかし、アイデアは豊富にあります。デザインセンスは無いと思っています。そこで、その部分をデザイナーに担ってもらうことでいいものになると考えています。また、一緒に仕事をすると「これくらいいいか」と自分の評価だけで決めることができず、お互いが納得しなければなりません。ですから、ハードルが高くなる一方、完成度も高まると思います。

**デザイナーと意見が食い違うのでは、という不安はありませんか？**

私の性格によるところもありますが、あまり不安はありません。私が商品の元となるアイデアを出し、それをデザイナーに依頼してデザインしてもらうという手順で進めることが多いのですが、自分でイメージするテーマや形を具体的に伝えるようにしています。そして、提案されたものが少しずつ出てきたときにも、まずしっかりと相手の意見を聞きます。デザイナーの意見を取り入れるのは一種の試みであり、冒険だと考えていますから、自分が納得で

ければ、相手の提案を受け入れることもあります。

**どうやってデザイナーと出会えばよいか悩む企業も多いようですが。**

例えば、自社の業種や扱う技術に興味を持ってくれそうなデザイナー志望の学生がいるデザイン学校を調べて、声をかけてみるというのはどうでしょうか。学生でなくても、デザイナーに自社を見学に来てもらう方法もあります。私は、七宝の技術を学びたいと工房を訪ねてきたデザイン学校の卒業生に「見習いとして雇うことはできないが、デザインをやってみないか」と声をかけて、一緒に仕事をしたことがあります。重要なのは待つだけではなく、積極的に探す気持ちで、行動を起こすことだと思います。

**デザイン費については、どうされていますか？**

一括でお支払いするのが基本です。私のアイデアに基づいて、スケッチやデザイン案を出すところまでをお願いして数万円をお支払いする、というケースが多いですね。状況に応じて「上代の〇%」という形で、ロイヤルティー形式をとることもあります。

**貴重なお話をいただき、ありがとうございました。**

デザイナーとの協働をチャンスと捉え、積極的にコミュニケーションを図ろうとされていたのが印象的でした。業種は違っても参考になる点も

多いと思いますので、ぜひ参考にしてみてください。

事業戦略支援室  
デザイン導入・活用支援事業  
アドバイザー 福本創平



畠山さんがデザイナーと一緒に作り上げた作品の一部。「桜富士」(写真左、中/デザイナー:村田繭衣氏)、「セブンスター」(写真右/デザイナー:石井明貴野氏)。

公社では、伝統工芸に関する下記の事業を実施しています。詳細は公社ホームページなどでご確認ください。

### 東京の伝統的工芸品チャレンジ大賞

新素材・新技術・新デザインなどを取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、優秀製品を選ぶコンテスト。毎年、多くの職人たちがその技を競う場となっている。詳細は本号14ページ参照。

<http://www.tokyokosha.or.jp/topics/challenge/>

### 東京都伝統工芸品展

現代の名工がつくり上げた工芸品を展示し、実演や販売も実施する、東京の伝統工芸の魅力体験できる催し。第57回目となる今年度は1月24日(金)～29日(水)、新宿高島屋11階催会場で開催する。詳細は本号15ページ参照。

問い合わせ先

事業戦略支援室 デザイン導入・活用支援事業担当

TEL:03-3832-3660 E-mail:senryaku@tokyo-kosha.or.jp

公社トップページ

→

公社事業案内

→

デザイン支援事業